

沼田中学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801番地1
電話番号 0278-23-1116 FAX 22-9856
校長名 富田 孝

I 学校の経営

1 学校の教育目標 【美しい心 高い知性 強い身体 を磨く生徒】

2 経営方針

- (1) 【子どもが輝く学校】(目指す学校像) 【子どもを輝かせる教師】(目指す教師像)
- ・子どもが「学びたい」と思う学校
 - ・保護者が「学ばせたい」と思う学校
 - ・地域の方が「応援したい」と思う学校
 - ・社会人としての優れた識見を有する教師
 - ・幅広い視野をもち学び続ける教師
 - ・豊かな人間性とコミュニケーション力を有する教師

(2) 本年度の重点目標

『自律と尊重』 「自ら考え、判断し、行動する」こと、「違いを理解し、他者を尊重する」ことに視点をあてた教育活動の推進

3 本年度の重点施策

- (1) 質の高い教育活動の推進に向けた組織的な校務運営と教職員の資質向上〔沼田市・先生の日〕〔沼田市教志塾〕
- ・主任等の指導助言、連絡調整機能の充実と、全教職員での共通理解・共通実践
 - ・参観ウィークや人事評価制度、研修履歴等の活用による、職員個々の職能成長(A訪問、B訪問(他校参観を含めて)、県教委(教育センター)研修、市教委研修(言向和平)等の活用)
 - ・特別な配慮を必要とする生徒への意図的・組織的・計画的な指導の工夫
 - ・働き方改革と働きがい改革の推進(教育の目的に照らし合わせて、業務の効率化と働きやすい職場(教職員が助け合い、自ら学び合う職場)づくりを目指す)
- (2) 自他を大切にし、思いやりと規範意識をもった「豊かな心」の育成〔児童生徒の命を守り、育てる指導〕〔沼田市SNSルール〕
- ・生徒の生活上の課題を踏まえた、道徳の授業改善と道徳教育の充実
 - ・自ら考え行動する取組への支援と取組の価値付けによる、自己有用感・自己肯定感の醸成
 - ・「凡事徹底」「脚下照顧」「知行合一」の励行と自己をみつめ生き方を考える意識の向上
 - ・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点とした特別活動の充実
 - ・「沼田中学校SNS利用ルール」「SOSの出し方に関する教育」等による、自他を尊重し、命を守り育てる教育の充実
- (3) 培う資質・能力の明確化と主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の育成〔わくわくスクール沼田〕
- ・指導と評価の一体化による、生徒の一人一人の実態を踏まえた指導の工夫
 - ・ねらいの明確化とねらいの達成につながる学習活動(ICT機器の活用等)の工夫
 - ・思考力の育成を図るため、思考ツールを活用した授業づくりや各教科等で身に付けた資質・能力を生かした探究的な学習(総合的な学習の時間「ぬまた未来創造学」)の充実を図る。
 - ・「よく(聞く)、聴く)、訊く)、利く)、効く)」ことを大切に授業づくり
 - ・言語力の育成に向けた教育活動の充実(「よむYOMUワークシート【読む力】」の活用、「読書活動」の推進、「三大文学賞」への挑戦【書く力】)
 - ・ペアや小集団等、学習形態の工夫により、見方や考え方を深めたり、広げたりする授業実践(【対話】と【交流】を生み出す授業づくり)
- (4) 特別な配慮を必要とする生徒への教育支援の充実
- ・特別支援学級に在籍する生徒へのきめ細かな支援(担任、教科担当、教育支援員の連携)
 - ・通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒への指導体制の充実(自校通級及び巡回型通級による管内の中学校に在籍する生徒に全校体制で指導にあたる仕組づくり)
- (5) 生涯にわたって運動に親しむ基盤となる「健やかな体」の育成〔教育部活〕
- ・「体力向上プラン」を活用した、学校課題の解決に向けた取組の充実
 - ・主体的に自己の体力向上や技能習得に取組むための、保健体育の授業や体育的行事の工夫
 - ・部活動地域展開(地域との連携・移行の在り方)について、各部の状況を踏まえた推進
 - ・健康的な生活の実践に繋がる、専門委員会活動、学校保健委員会等の実施
- (6) 安全で安心な居場所づくりと、潤いのある学習環境の整備〔セーフティ沼田〕〔小中連携〕
- ・生徒の危機予測回避能力の育成と職員の危機管理・安全管理の徹底
 - ・熱中症、各種感染症、食物アレルギー等に対する理解と全校体制による指導や対応の徹底
 - ・健康的な心身の育成に向けた生活習慣の見直し(食事、睡眠、SNSの利用等)
 - ・学び舎への愛着をもてるよう、温かみのある教室環境や花と緑のある校内環境の整備
 - ・合同引き渡し訓練(地震想定)や不審者対応訓練の実施による、実践的な安全教育の推進
- (7) 地域の次代を担う人材の育成を視野に入れた地域と学校の連携・協働〔ぬまた未来創造学〕
- ・コミュニティ・スクールの推進による地域と連携・協働した指導体制の構築
 - ・「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」との連携・協働による教育活動の推進
 - ・「9年間で目指す児童・生徒の姿(R6)」に基づく9年間の育ちを見通した生徒の育成
 - ・「ぬまた未来創造学」に基づく総合的な学習の時間の実施による郷土を愛する心の醸成
- (8) 学校統廃合を見通した教育活動の推進と各種組織等の見直し
- ・令和9年度の沼田東中学校との統合を踏まえた生徒同士の交流活動の推進
 - ・令和12年度までの学校統廃合を見通して、各種組織の見直しや統合に向けた具体的な動きについて、当該学校や市教委との連絡調整を実施

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的・協働的に課題解決に取り組み、積極的に地域社会に参画しようとする生徒の育成
副主題 ～「ぬまた未来創造学」における探究的な学習の実践を通して～

生徒の実態との関わり

- ・地域のことを深く知らず、地域の人・もの・ことと、主体的な関わりができていない。
- ・見通しをもって、学習に取り組むことができていない生徒が多い。
- ・昨年度までの校内研修を通して、学び合いの場で思考ツールを使って考えたり、それを基に友達に自分の意見を伝えたりできる生徒が増えてきた。

指導の在り方との関わり

- ・総合的な学習の時間において、地域の人・もの・ことを活用した学習があまりできていなかったり、探究の過程を踏まえた学習が教師主導で進めたりすることが多かった。
- ・昨年度の校内研修では、思考ツールを生徒に使わせることはできたが、思考ツールを基に学びを深めたり、考えを練り上げたりさせる指導には課題が残った。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

身近な人々や社会、自然との関わりの中から自ら課題を設定し、探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に課題を解決し、地域社会との関わりの中で、自己にできることを考え、自分のできることを進んで取り組もうとする生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・「ぬまた未来創造学」の考えを基に、総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画を探究的な学習の過程を重視しながら見直し、単元配列表、単元計画を作成する。
- ・対話・交流場面において、思考ツールを活用する。
- ・「参観ウィーク」を計画的に実施し、教師同士の学び合いを行い高め合っていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・地域の人・もの・ことを活用し、探究の過程を踏まえた単元計画を作成し、授業実践を積み重ねたことで、生徒が地域に主体的に関わり、課題解決の見通しをもって学習に取り組めるようになってきた。
- ・対話・交流場面において思考ツールを活用したことで、生徒が一人一人の考えを大切にしながら話し合ったり、焦点化した対話を行ったりするなど、協働的に学習に取り組めるようになってきた。

○課題


- ・生徒が地域課題を自分事として捉え、必要感や切実感をもって課題解決に取り組めるような探究課題との出会わせ方、授業者の発問や支援の仕方等をさらに考えていく必要がある。
- ・生徒の評価や限られた授業時間内で活動内容に深まりをもたせるための指導方法に難しさがあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・各探究の過程における指導方法についての成功事例を全体で共有し、授業者の指導力向上を図ると共に、学習内容を整理・精選して、総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画を見直していく。

3 研修計画・経過報告

月 日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点]
4 / 7 (月) 全体会①	本年度の研修計画の方向性	○沼田中学校としての「ぬまた未来創造学」の内容の検討 ○研修主題、副主題、方法の検討
資質向上研修①	学校保健に関する研修(区分:エ)	○食物アレルギー対応の仕方についての確認
4 / 9 (水) 推進委員会①	研修主題について	○研修主題の決定
4 / 28 (月) 全体会②	研修内容・方法等の共通理解	○研修主題、副主題の確認 ○研修計画の立案
5 / 8 (木) 推進委員会②	群馬大学附属中学校との情報交換	○群馬大学附属中学校の研修担当職員・沼田市教育委員会指導主事との情報交換
5 / 19 (月) 全体会③	今後の研修の方向性について	○群馬大学附属中学校との合同授業に向けて ○指導主事訪問 A の指導案形式について
6 / 10 (火)	指導主事訪問 A	○個別の授業改善の視点の検証
6 / 20 (金) 特別研修授業	2年 総合的な学習の時間 生方教諭 「働く人の思いを知り、よりよい自己の生き方を考えよう～東京旅行、職場体験を通して～」	○「探究心を持ち、振り返りで学びをつなぎ、深められる生徒の育成」に向けての総合的な学習の時間の授業提案
7 / 7 (月) 全体会④	研修の方向性の確認	○指導主事訪問 A を終えてのこれからの研修方法の確認
7 / 29 (火) 推進委員会③	小単元 2 の単元計画の検討	○小単元 2 の単元構想、単元計画案について ○沼田市教育委員会指導主事からの指導・助言を基にした小単元 2 の単元計画の検討
8 / 21 (木) 推進委員会④	群馬大学附属中学校との合同授業の指導案検討会	○合同授業の指導案検討 ○生徒についての情報交換
8 / 26 (火) 推進委員会⑤	小単元 2 の単元計画の方向性	○小単元 2 の単元計画の方向性の確認
8 / 27 (水) 全体会⑤	小単元 2 の単元計画の確認	○小単元 2 の単元計画の確認
9 / 1 (月) 推進委員会⑥	群馬大学附属中学校との合同授業の指導案検討会	○合同授業の指導案検討
9 / 12 (金) 合同授業	2年 総合的な学習の時間 篠崎教諭・鈴木教諭・生方教諭 清水教諭・戸部教諭 「働く人の思いを知り、よりよい自己の生き方を考えよう～東京旅行、職場体験を通して～」	○群馬大学附属中学校の生徒とのタブレットの接続確認 ○群馬大学附属中学校の生徒と沼田中学校の生徒同士の情報交換
9 / 22 (月) 全体会⑥	指導主事訪問 B の指導案検討会	○指導案に基づく授業計画の説明・授業計画の検討
9 / 29 (月) 資質向上研修②	メンター研修(区分:A)	○ Canva の使用方法、授業への展開
10 / 2 (木) 特別研修授業	2年 総合的な学習の時間 生方教諭 「働く人の思いを知り、よりよい自己の生き方を考えよう～東京旅行、職場体験を通して～」	○「探究心を持ち、振り返りで学びをつなぎ、深められる生徒の育成」に向けての総合的な学習の時間の授業提案
10 / 3 (金) 10 / 6 (月) 10 / 10 (金) 合同授業	2年 総合的な学習の時間 篠崎教諭・鈴木教諭・生方教諭 清水教諭・戸部教諭・瀧澤教諭 「働く人の思いを知り、よりよい自己の生き方を考えよう～東京旅行、職場体験を通して～」	○群馬大学附属中学校の生徒が、実現したい未来に向けて自己の生き方を見つめ直し、自らの探究を深めていけるような授業提案に向けての交流授業
10 / 20 (月) 全体会⑦	指導主事訪問 B の指導案検討 授業検討会の進め方について	○授業計画の確認 ○参観の視点・授業検討会の進め方について

11/10(月)	指導主事訪問 B 1年 総合的な学習の時間 鈴木教諭・藤井教諭 深井教諭・友松教諭 阿部教諭・山田教諭 篠澤教諭 「ふるさとぬまたの魅力を知る私」	○研修主題に迫る生徒のようす・教師の支援 ・導入で、パンフレットを作る目的や再構成するときのポイント、作業の手順を丁寧に説明し、見通しを持たせていた。 ・教師の問いかけにより、生徒が自分なりの根拠を示して返答することができていた。 ▼座標軸を基に優先順位を決めさせるには、付箋を配置した理由を教員が深く掘り下げられるとよかったのではないか。
11/21(金)	社会教育指導主事訪問 3年 総合的な学習の時間 飯野教諭・櫻井教諭・遠山教諭 田村教諭・高橋教諭・篠澤教諭 林教諭 「ふるさとぬまたの課題を基に未来を創る私」	○充実した地域学校協働活動にむけて 
12/5(金) 推進委員会⑦	今後の研修の方向性について	○今後の流れについての検討 ○アンケート内容の項目検討
12/8(月) 全体会⑧	今年度のまとめ方について	○指導主事訪問 B の協議内容・指導主事からの指導・助言内容の確認 ○総合的な学習の時間の探究テーマ、単元計画、スタートB o o k の内容の協議
12/18(木) 推進委員会⑧	今後の作業内容の確認	○今後の作業内容の確認 ・年間指導計画の作成 ・単元計画表の作成 ・単元配列表の作成
2/2(月) 推進委員会⑨	作成物の内容の検討	○作成物の内容の検討 ・年間指導計画 ・単元計画表 ・単元配列表 ・スタートB o o k
2/13(金) 推進委員会⑩ 2/16(月) 全体会⑨	作成物の内容の確認 校内研修アンケート結果分析 次年度の校内研修の構想の検討	○作成物の内容の確認 ○今年度の研修の成果と課題の把握 ○次年度の研修内容の検討
2/24(火) 推進委員会⑩	次年度の校内研修の構想の検討	○次年度の研修内容の検討
3/16(月) 全体会⑩	次年度の校内研修の構想の検討	○次年度の研修内容の検討

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	富田 孝	教諭	山田 美穂	教諭	田村 健介	スクリーンリーダー	阿左見康成
教頭	本多 章浩	〃	林 拓磨	〃	清水 健伯	スクリーンリーダー	板坂まち子
教諭	阿部 詩子	〃	生方裕一郎	〃	遠山 莉菜	心の教室相談員	下田 高男
〃	篠崎 真理	〃	鈴木 元気	〃	友松 祐佳	学校教育支援員	佐藤 光男
〃	篠澤 敦子	〃	鈴木 英樹	〃	小尾 悦子	〃	黒沢 伸江
〃	飯野 智	〃	藤谷 直道	〃	倉品とみ子	〃	萩原ちづる
〃	藤井 剛史	〃	戸部 尚樹	養護教諭	真船由美子	〃	松井 彩
〃	大竹 訓子	〃	高橋 浩美	総括事務長	森下 直樹	主任用務員	原田 徳樹
〃	瀧澤 裕志	〃	深井 優介	事務主事	井上 美里	学校事務補助	宮澤祐里奈
〃	伊藤 容子	〃	櫻井 陽希	非常勤講師	阿部 亮一		

沼田南中学校

所在地 〒378-0015 沼田市戸鹿野町726番地
電話番号 0278-23-5557 FAX 22-9857
校長名 田村 学

I 学校の経営

1 学校の教育目標

〈基本目標〉 人間尊重の精神を基盤に、地域や国際社会に生きる自覚を高め、心豊かで逞しく活力ある生徒を育成する。

〈具体目標〉 「英知」 知性を磨き、創意を生かして考える生徒 「礼節」 秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒
「強健」 心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒

〈スローガン〉 自己を磨き、他に尽くす 尽くされたら感謝の気持ちを表そう




2 経営方針

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康増進と体力の向上
- (4) 生徒指導態勢・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、関係機関との連携・協働の充実

3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の充実
 - ・学習指導要領に基づく確実な教育課程の編成、実施、評価、改善
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及びカリキュラムマネジメントの充実
 - ・育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想
 - ・単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
 - ・丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による指導力の向上
 - ・授業と家庭学習を関連付けた学びのサイクルの充実
 - ・各教科等の目標に迫る1人1台端末等のICT環境を効果的に活用した学習指導の工夫
 - ・読書活動の充実と図書室の環境整備及び家庭での読書推奨【家族で本を読みましょ！】
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
 - ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実及び全教育活動を通じた豊かな心と実践力の育成
 - ・「考え・議論する」道徳の時間の質的な充実に向けた指導の工夫
 - ・ボランティア活動等を通して、自ら行動しようとする態度の育成を目指した福祉教育の充実
 - ・思いやりのある言動をとる生徒を育むための人権教育の充実
 - ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）【児童生徒の命を守り、育てる教育】
- (3) 心身の健康増進と体力の向上
 - ・学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
 - ・体力向上プランを踏まえた教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上
 - ・目標に向かって自主的・主体的に粘り強く取り組む生徒を育成するための部活動の充実【教育部活】
 - ・生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進【セイフティ沼田】
- (4) 生徒指導態勢・特別支援教育の充実
 - ・生徒指導・教育相談委員会を核とした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
 - ・「よさを認め、励ます」場面を意図的に設定することによる「自己有用感」「自己肯定感」の高揚
 - ・いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援を含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実
 - ・SNSルールの活用を中心とした情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進【市SNSルール】
 - ・「個別の教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- (5) 家庭や地域、関係機関との連携・協働の充実
 - ・学校・学年だよりやホームページ、H&Sによる情報提供の充実
 - ・家庭学習の習慣化を図る指導の工夫と家庭との連携による自律した学習者の育成
 - ・ふるさとに誇りや愛着をもち、郷土愛を育む教育の充実【ぬまた未来創造学】
 - ・小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
 - ・自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由
～研修主題～
主題 主体的に学び合い、追究できる生徒の育成
生徒の実態との関わり
<ul style="list-style-type: none">・友達や教師の話聞いて理解する力はついてるが、分からないところや課題に思っているところを自分から調べたり友達に質問したりする力を伸ばしたい。・協働的な学習を進める際に、どのような視点で話し合ったり、どのように話を進めていったらいいのかわからない生徒もいる。
指導の在り方や研修との関わり
<ul style="list-style-type: none">・話し合いの中で考えを深めていけるようにするために、考える視点を示したり、ヒントカードを渡したりするなど具体的な手立てを工夫することで、生徒たちが主体的に追究しようとする姿が見られた。・より生徒が主体的に学び合いを進めるために、生徒にとって必要感のある課題を設定したり、課題を追究できる場を整えたりする必要がある。

2 研修内容・方法
(1) 具現化した目指す生徒像 学習課題を自分事として捉え、自分の意見や疑問をもって対話することを通して、主体的に課題を追究し解決しようとする生徒
(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て
<ul style="list-style-type: none">・生徒が主体的に学習に取り組めるよう、生徒が意見や疑問をもちながら探究することのできる学習課題の設定を工夫する。・生徒が自分の考えを深めたり確かめたりするために、対話ツール等を活用しながら課題を追究できるようにする。・生徒が対話の中で「訊く」ことを通して課題を追究できるよう、教師がファシリテーターとして意見を引き出せるようにする。

3 研修計画・経過報告 <次ページ>

4 これまでの研修の成果と今後の取組
○成果
<ul style="list-style-type: none">・「学び合いキーワード」を校内研修の中で作成し教室掲示したことで、生徒たちにも授業の中で話し合いの手立てとして活用できるようになった。・違いを見つける場面、生徒にとって身近な事柄を取り扱ったテーマなどで、生徒たちの学び合いが活発に行われていることが分かった。学び合いを活発にさせる場の工夫として、課題設定の重要性が明確になってきた。

<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって難易度の高いテーマを取り扱った時に、生徒同士での学び合いが活発に行われなかった場面が見られたため、生徒たち自身が、何が分かっていて何が分からないのか、どうすれば気づきを与えることができるのか教師がファシリテートする必要がある。 <p>○今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人二授業の授業実践を通して、どのような場面で教師のファシリテートが効果的に機能していたのかを分析していく。

副主題の「場」について

場...生徒が課題を追究するために、自分の意見をもったり、調べたり、友達と話し合ったりする場のこと

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 **授** は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	[○研修の視点 (上段) ・明らかになったこと (下段)]
4. 3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの研修経過の確認 (推進委員会) 研修主題、課題、内容、計画の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の反省・課題の確認と今年度の方向性の話し合い ・昨年度からのテーマを引き継ぎつつ、昨年度よりも焦点を絞り、課題追究についての研修を進める。
4. 11	<ul style="list-style-type: none"> 研修主題、課題、内容、計画の共通理解 	○研修のテーマについての見直し
5. 12	<ul style="list-style-type: none"> 指導主事訪問Aに向けて (指導案の様式等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修のテーマ、手立てが明確になり、教員間で共有することができた。各自の授業で実践していく。
5. 26	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の計画 	
6. 5	<ul style="list-style-type: none"> 指導主事訪問A 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の進め方についての見直し ・各自の授業実践を公開し、互いに授業を見合って学び合うことができるようにしていきたい。
6. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・NRT分析 ・一人二授業の実践に向けて ・指導主事訪問Aの反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修主題に向けた手立てが実践できているか ・話し合いで生徒の意見を引き出すファシリテーターとしての役割を意識して授業実践を行っていく必要がある。
6 ~ 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会で内容について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修主題に向けた手立てが実践できているか ・話し合いの際に生徒たちが使える「学び合いキーワード」を作成し、掲示することができた。
8. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 (学校評価アンケート分析①) 	○研修主題を実践できる授業になっているか検討する。
10. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事訪問Bに向けて ・指導案検討会 指 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討と模擬授業を通して、全教諭で確認することができた。課題意識を高める工夫、生徒の意見を引き出す工夫を丁寧に確認した。
11. 13	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事訪問B授 	<ul style="list-style-type: none"> ○分析と考察 ・主体的に学習するためには、相手意識をもたせるなど生徒にとって必要感のある課題設定の重要性が明らかになった。また、自分の考えをもたせたり意見を引き出したりする教師のファシリテートの在り方を研究する余地があることが分かった。

11.25	・指導主事訪問Bの振り返り	・課題設定の工夫を研究し、生徒にとって身近で自分事として考えられるような課題設定を工夫していきたい。
1.19	・学校評価アンケート分析②	・教諭間で課題と成果を共有し、次年度につなげていく。
2.16	・次年度の検討	○分析と考察
3.16	・次年度の確認	○研修の反省と課題

5 資質向上研修

月日	研修計画〔内容〕		実施内容
	区分	講師	
4.11	カ 特別支援研修	特別支援 CO.	通級についての理解を深め、支援を必要とする生徒に対してどのような支援ができるのかを考える。
4.11	ア 学力向上研修①	学力向上 CO.	授業参観ウィークについて（互いの授業実践を見合う）
4.28	キ 服務規律	教務主任	生徒指導上で守るべき服務規律について
4.28	ク メンター研修（全3回）		学級経営、部活動顧問、生徒指導などの手法の情報交換
6.30	エ 救急救命法講習	利根沼田広域消防本部	心肺蘇生法、熱中症で倒れた生徒への初期対応について
7.15	キ 服務規律	市教委管理主事、総務係	服務規律確保に向けて、児童生徒性暴力について
10.20	キ 服務規律	第3学年	個人情報の紛失・盗難について
12.8	キ 服務規律	第2学年	事例から学ぶ公務員の義務について
1.19	キ 服務規律	第1学年	生徒への不適切な行為について

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名
校長	田村 学	教諭	登坂 遙羽
教頭	山中 英史	〃	清水 昭
教諭	吉川 洋之	養護教諭	金子 芽生
〃	町田 実	事務長代理	片野 恵
〃	平井 美千代	教諭（学校間連携）	林 徹志
〃	津久井 仁美	初任研後補充	尾崎 和子
〃	男沢 紗代	支援員	林 祥子
〃	松井 恒俊	〃	小野 綾希
〃	本多 真美	〃	高橋 泰子
〃	藤倉 寛明	用務員	工藤 信悦
〃	小嶋 博子	事務補助員	萩野 慎也
〃	綿貫 諒太	心の相談員	有坂 由紀子
〃	櫛 潤 悠	スクールカウンセラー	相原 英子
〃	渡辺 訓史	スクールソーシャルワーカー	松岡 一明
〃	樋口 建斗	部活動指導員	中島 務
〃（学校間連携）	本田 祐子		

沼田西中学校

所在地 〒378-0031 沼田市薄根町3580番地
電話番号 0278-22-3055 FAX 0278-22-9858
校長名 平形 隆正

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【学校教育目標】「高い知性、温かい心、たくましい体をもつ生徒の育成」
《目指す生徒像》○向学…自ら学ぶ生徒 ○礼節…思いやりのある生徒 ○進取…挑戦する生徒
《目指す学校像》…生徒が心から「通いたい」と思える開かれた学校
《目指す教師像》…熱意、誠意、愛情のあふれる教師

2 経営方針

- 学校教育目標、重点目標の実現を目指し生徒とともに全職員で組織的・協働的に取り組む。
- 生徒がエージェンシーを発揮し学び合いを通して課題解決に取り組むなど、満足感や達成感、成就感を得られる学習や生活の場の充実を図る。
- P T Aや学校運営協議会、地域と一体となった特色ある学校づくりを推進する。
- 安全・安心な教育活動を基盤とする信頼される学校づくりを実現する。
- 職員一人一人のよさ、思いやアイデアを活かした学校経営の充実と風通しのよい職場づくりを推進する。

3 本年度の重点施策

【本年度の重点目標】

主体性と学び愛・支え愛の創造 ～大きな声であいさつ・返事！笑顔あふれる西中にしよう～

- 「高い知性」の育成 【沼田市・先生の日】 【ぬまた未来創造学】
 - 西中「授業のスタンダード」に基づく、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり
 - 生徒がエージェンシーを発揮し自ら課題解決に取り組めるよう、自分で決定し他者と交流しながら試行錯誤するなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進
 - 読解力向上のための「よむYOMUワークシート」の計画的な活用と積み上げ実践
 - 「家庭学習の手引き」に基づく各教科担当による働きかけ、家庭と連携した家庭学習の一層の充実
 - 生徒一人一人の多面的な理解に努め、個々の生徒の困り感に寄り添い、個に応じた支援を充実（特別支援教育の推進）
- 「温かい心」の育成 【ぬまた未来創造学】 【沼田市SNSルール】
 - 道徳的な価値を自分との関わりで深められるような、多面的・多角的に考えられる交流場面などを設定した「考え議論する」道徳科授業の推進
 - 生徒相互の支え合いによりお互いを大切にする学級経営、教室環境・言語環境の整備を通じた温かい雰囲気づくりなど、常時指導を基盤とした自他を大切にする人権教育の推進
 - 「時を守り、場を清め、礼を正す」など基本的な生活習慣の充実を図る日常的・継続的・組織的な指導の推進
 - 地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心の育成
 - 生徒会活動を中核とした生徒主体のいじめ防止活動の推進といじめの早期発見・早期解決に対応できる職員の協働体制の構築
 - インターネット利用について、「知る」「育てる」「整える」を踏まえ、「自分・友情・未来」を守るために「沼田市SNSルール」を理解し、生徒主体の西中生徒会SNSルールの改善を通して、正しく賢く利用するための知識と意識を高められるようにする。
 - SCやSSW、関係機関等と連携した教育相談体制の整備と生徒に寄り添う心の教育の推進
- 「たくましい体」の育成 【教育部活】 【命を守り、育てる教育】
 - 「体力向上プラン」に基づく教科体育を核とした運動への意欲と体力向上を図る取組の促進
 - 「心・技・体」の調和、生徒の主体的な取組や礼儀等の人間の成長を重視した教育部活の実践
 - 全教育活動を通じた命を大切にする態度と健康で健全な心身の育成
 - 生徒会専門委員会や学校保健委員会を活用した望ましい生活習慣の定着を図るための取組と健康管理の推進
- 安全で安心な環境整備 【セイフティ沼田】 【幼小中連携】 【命を守り、育てる教育】
 - 学校安全マニュアルに基づく実効性のある避難訓練や職員研修を通じた安全管理・危機管理の充実
 - 地域の人的・物的資源の積極的な活用など家庭・地域との連携・協働による教育活動の推進
 - 食物アレルギーや感染症対策等に関する全教職員の共通理解と協働体制の充実
 - 小学校と連携した規律正しい生活習慣の確立等による生徒の健康安全の増進
- 高い専門性を活かした愛情あふれる指導の推進 【提案型・課題解決型の職員集団の構築】
 - 確認（職員が考え、管理職が承認）・連絡（情報の共有）・報告（進捗状況の管理職への報告）による職員一人一人の思いやアイデアを活かした取組を推奨
 - 人事評価制度、各種研修、同僚性を活かした職員の職能成長・指導力向上を図る取組の充実
 - 多忙化解消に向けた業務改善・意識改革の推進と部活動の適正な運営及び地域展開に向けた準備の継続実践
 - 困ったときに弱音を吐いたり、頼ったり、相談したりできる生徒と職員との信頼関係の構築と全ての生徒の成長を支える日常的な職員による生徒の積極的な認知や賞賛の励行

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自己の考えを深め、表現できる生徒の育成

副主題 各教科における思考の可視化と共有後の発問の工夫を通して

生徒の実態との関わり

- ・思考を可視化し、共有や整理を行うことで生徒自身も自分の意見を言語化し、表現できるようになってきた。
- ・思考を可視化し、共有することはできたが、その可視化したものから更に考えを広げたり、深めたりするという段階までには至らないことがあった。
- ・自分の考えをまとめたり再構築したりするのに時間がかかったり、まとめ方が分からなかったりする生徒が見られたので、まとめる等の表現する力をさらに伸ばす必要がある。

指導の在り方との関わり

- ・教師が思考の可視化の仕方や、思考ツールの活用法についてより多くの方法を考えることができていく。その中で課題設定の工夫や教材の工夫、活動の必要感をもたせるための工夫など、より充実した授業方法を模索していく。
- ・課題から、可視化した後に問い返しをしたり、新たな視点を与えたりすることに重点を置くことが、考えを広げたり深めたりすることに有効なのではないかと考える。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・各教科の特性に応じた方法で、自他の考えを共有し整理することを通して、自分の考えを表現することができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・思考の共有と整理の過程で、各教師や教科ごとに、効果的な思考の可視化の方法を取り入れる。思考の提示方法は、ICTをはじめ、付箋等の従来の方法も含めて効果的だと考えられるものを工夫する。
- ・思考を共有した後、さらに考えを広げ深められるような発問や新しい視点を与える工夫をする。
- ・授業構想シートを活用した授業づくりにより、共通実践する手立ての具体化を図るとともに、交流の形態や目的・観点を明確にして、思考の共有と整理をする学び合いができるようにする。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・昨年度から継続している思考の可視化については、ほぼ全ての授業で意識して取り入れられている。生徒も慣れてきており、自分の考えだけでなく他の考えや意見を見て、内容の理解を深めている。
- ・発問の工夫にも各授業で取り組んでおり、より授業の内容について迫っていく様子が見られた。

○課題

- ・発問の工夫や、新たな視点を与えることについては、問い返しにより生徒の興味を引くものや、思考を深め、広げさせるものなど、まだ工夫の余地が残っている。
- ・授業内容を広げ深めることについての定義が曖昧になっている部分があり、他教科の教員からは生徒の習熟の様子を見取ることが難しい場面もあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・可視化した後の、生徒の変容や思考の深まりを重要視したい。よって、校内研修や一人一授業の授業研究会では、その部分を焦点化して協議し、授業内容を考えていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.14	全体会(第1回) ・研修主題、研修の方向性 ・研修計画、共通実践の手立て	○研修主題・研修内容・研修組織等について ・研修主題「自己の考えを深め、表現できる生徒の育成」副主題「各教科における思考の可視化と共有後の発問の工夫を通して」に決定
5.19	全体会(第2回)	○研修の進め方について ・校内研修の進め方についての確認
6.9	全体会(第3回) ・A訪問について	○A訪問に向けて ・当日の日程、必要なものなどの最終確認
6.9	2年国語 「短歌」	授見城由昭教諭 ○情景や感動が伝わるように、表現を工夫する。 ・グループでの交流活動の後に問い返しの発問をすることでまとめにつながり、思考を深めることにつながるのではないかと。
6.20	指導主事訪問A	○研修を充実させるために重要なことについて ・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
7.7	全体会(第4回) 指B訪問に向けての指導案検討①	・情報交換及び、指導主事訪問Aでの指導・助言を受けて、今後の研修内容の確認
7.10	3年理科 「遺伝の規則性」	授諸田遼平教諭 ○有性生殖で、子の形質が孫に受け継がれるきまりを考える。 ・確率の考え方(樹形図)を使用し考えている班を取り上げており、新たな視点を与えることができていた。
7.15	1年音楽 「イメージと音楽との関わり」	授新井智子教諭 ○曲に対するイメージや雰囲気はどこから生まれるのか、その根拠を考える。 ・集中して、ワークシートへの記入をしている生徒が多く、関心の高さがうかがえた。感じたことや頭の中にあることを文字化していく作業によく取り組んだ。
7.17	1年社会 「展開する天皇・貴族の政治」	授阿部大地教諭 ○国風文化は、なぜ唐(中国)の影響が弱いのか。 ・課題解決に向けて、興味を持って主体的に学びに向かっていた。 ・ロイロノートの提出箱で「個人」と「グループ」を作り、整理ができていた。
9.3	3年国語 「フロン規制の物語」	授岡田秀久教諭 ○文章を批判的に読み、交流を通して考えを深める。 ・ディベートで自分の考えを可視化させていた。 ・「どのような説明を行えば、説得力があるのか」の視点を問い返して深められた。
9.3	3年数学 「2次方程式」	授小林勇太教諭 ○2次方程式はどのような解法で解くのが最適だろうか。 ・生徒が発表したものに対して、生徒同士で質問することでパス回しを図っていた。
9.8	全体会(第5回) ・B訪問実施方法指B訪問に向けての指導案検討②	○指導案に基づく授業改善策の検討
9.29	全体会(第6回) ・B訪問実施方法指B訪問に向けての指導案検討③	○指導案に基づく授業改善策の検討 模擬授業の実施
10.14	3年英語 「Program 4」	授小林利香教諭 ○ユニバーサルデザインを40語程度の英文で紹介できる。 ・グループ活動を通して改善した部分を赤字で入力させたことで、深まった部分や変容が視覚化されてわかりやすかった。
10.15	3年体育 「たとえぼくに明日はなくとも」	授吉野智彰教諭 ○石川正一さんの生き方から、生きることを考えを深めさせる。 ・思考ツールや画面共有などICTを有効に使っていた。 ・共有ノートを使うことで友達の考えを見ながら自分の考えを入力することができる。
10.16	指導主事訪問B 1年数学 「比例と反比例」	授田中美優教諭 ○反比例のグラフはどのような特徴があるか ・ICTの活用で生徒が興味をもちながら課題にせまれた。 ・グラフの特徴を生徒自ら確かめる展開で、数学的な見方・考え方で主体的に課題に向かっていた。 ・話し合いが活発に行えており、考えを再構築する生徒も見られた。 ・発問に対して、生徒が色々な表現で考えを深められていた。
10.20	全体会(第7回)	○情報交換及び、教育水準向上授業研究会の指導・助言を確認

	・指導主事訪問Bを受けての研修内容の検討	
11.17	全体会（第8回）	○学校内の研修の進捗状況と一人一授業の予定の確認
11.12	2年英語 「Program5」	授阿部美穂教諭 ○要点をエクスクラートに整理し、キーワードを使って説明する活動を通して、概要を捉えることができる。 ・録音で、音の可視化をしたことでイメージが具体的になった。 ・タブレット（ロイロノート）、ヘッドセットを使った英語の特性を活かした授業であった。
12.9	3年技術 「プログラミングによる問題解決」	授井上治男教諭 ○プロロボに円を一周（机上で）描かせることができるか。 ・論理的数学的な思考も見られ、お互いで高め合う姿が見られた。 ・有効なペア学習が協力的にスムーズに行われていた。
12.15	全体会（第9回）	○2学期の授業実践の成果と課題の確認
1.26	全体会（第10回） ・今年度の成果と課題の検討	○今後の研修のまとめ・共通理解
2.16	全体会（第11回） ・来年度の研修・研修のまとめ	○研修の成果と課題のまとめ ○来年度の研究の方向性について検討
3.2	全体会（第12回）	○研修の成果と課題のまとめ ○来年度の研修主題、副主題についての検討

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
4.28	救急処置(アレルギー等)に関する研修	養護教諭	熱中症、食物アレルギー、嘔吐物処理の緊急対応法
6.24	特別な配慮を要する生徒への対応について	スクールカウンセラー	特別な配慮を要する生徒への対応や諸注意について
6.30	服務規律研修①	小林勇太教諭	飲酒運転防止について
7.7	研修動画の視聴	教頭	教職員と児童生徒との適切な関係について
9.1	研修動画の視聴	教頭	適切な部活動運営について
9.1	ICT活用	校長	電子黒板とデジタル教科書の活用について
8.27	救急救命(AED)に関する研修	養護教諭 中央消防署	救急救命法、AEDの使用法実習
10.6	服務規律研修②	阿部美穂教諭	わいせつ行為、児童生徒への体罰防止について
10.20	不審者対応についての研修	安全主任/沼田警察署 生活安全課	不審者対応について
1.26	服務規律研修③	吉野智彰教諭	個人情報の適切な管理について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	平形 隆正	教諭	井上 治男
教頭	大澤 誠	〃	萩原 裕子
教諭	阿部 政	養護教諭	富澤 彩香
〃	小林 利香	統括事務長	小野 千代子
〃	阿部 美穂	非常勤講師	金子 真人
〃	新井 智子	〃	金子 友美
〃	吉野 智彰	SC	清田 和泉
〃	見城 由昭	SSW	板坂 まち子
〃	小林 勇太	部活動指導員	金子 功
〃	諸田 遼平	教育支援員	飯塚 貞子
〃	阿部 大地	用務員	黒岩 健康
〃	田中 美優	スクールサポートスタッフ	渡邊 司
〃	岡田 秀久	拠点校指導員	下田 洋一

沼田東中学校

所在地 〒378-0002 沼田市横塚町1118番地
電話番号 0278-22-2472 FAX 22-9859
校長名 林 崇夫

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 基本目標 『敬愛』… 個性を尊重し合い、共に個性を生かし合って学ぶ
『誠実』… 感謝と真心をもって実践する
- スローガン『自分と他者を尊重し、自ら判断し行動する ～明るく、元気に、前向きに～ 』
- 目指す生徒像 『自発』… 「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」
『責任』… 「責任のもてる判断、行動をする生徒」
『協力』… 「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」
『礼儀』… 「互いに気持ちの良い生活を求め、実践する生徒」
- 目指す学校像 『楽しさと潤いに満ちた、活力ある学校』
 - ・楽しく学び合える学校【生徒】
 - ・働きがいのある学校【教職員】
 - ・安心して通わせたい学校【保護者】
 - ・応援したい学校【地域】
- 目指す教職員像
 - ・学び続ける教職員
 - ・教育的愛情をもち、生徒に寄り添う教職員
 - ・誠実かつ迅速に行動し、信頼される教職員

2 経営方針

- (1)教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進（創造・協働・意思疎通）
- (2)「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」を育むための、授業の改善と充実
- (3)「責任の持てる判断、行動をする生徒」を育むための、健康（体力・保健・食育・安全）の増進
- (4)「互いに気持ちの良い生活を求め、実践する生徒」を育むための、人権教育と道徳教育の推進
- (5)安全で安心な学びの場づくりと主体的に命を守る安全教育の推進
- (6)「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」を育むための、地域とともにある学校づくり

3 本年度の重点施策

- (1)教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
 - ・教職員の使命を自覚した服務規律の確保とともに、同僚性を高めた組織力と専門性の向上（『沼田市教志塾「言向和平」』）
 - ・業務の効率化や労働時間の適正化に努め、働きがいのある職場環境づくりを推進
- (2)「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」を育むための授業の改善と充実
 - ・確かな学力の定着を目指した活動のねらいの明確化と、主体的・対話的で深い学びの促進
 - ・生徒の実態を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善と家庭学習の充実
- (3)「責任の持てる判断、行動をする生徒」を育むための健康の増進
 - ・楽しさを体験できる教科体育の工夫・改善と、家庭や地域との連携による適切な部活動の推進（『教育部活』）
 - ・食に関する正しい知識や習慣を身に付けられるよう、組織的な食育に関する指導の実施
- (4)「互いに気持ちの良い生活を求め、実践する生徒」を育むための人権教育と道徳教育の推進
 - ・どの生徒にも温かい雰囲気を受け入れる思いやりのある学級づくりと個に応じた多様な居場所の確保
 - ・交流活動の充実を図り、教育活動全体を通したやさしさと思いやりにあふれた豊かな心の育成
 - ・生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性を伸ばし、社会的資質・能力の発達を支える生徒指導による自己指導能力の育成
 - ・生徒の主体性をいかす生徒会活動と学級活動による自律性の育成
- (5)安全で安心な学びの場づくりと主体的に命を守る安全教育の推進
 - ・教職員の危機管理意識の維持高揚と危機管理に応じた家庭・地域・関係機関等との連携（『セイフティ沼田』）
 - ・避難訓練や交通安全教室を通じて、主体的に安全を確保するための判断力や実践力の育成
- (6)「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」を育むための地域とともにある学校づくり（小中連携、キャリア教育 等）の推進
 - ・学校運営協議会との連携、学校情報の積極的な発信と地域教育資源の活用、生徒の地域貢献活動の実践、地域の実情に応じた役割分担と連携・協働の推進（『わくわくスクール沼田』）
 - ・探究的な学習（総合的な学習の時間・特別活動等）の実践による、郷土愛、自己有用感の育成（『ぬまた未来創造学』）

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 学び合い、考えを高め合う生徒の育成
副主題 ～自発的な対話と交流を促す手立ての工夫を通して～

生徒の実態との関わり。

- ・昨年度の取組を通して、対話・交流活動で自分の意見を発言できる生徒が増えた。
- ・自発的に対話・交流活動に取り組もうとする姿勢を養っていかなければならない。

指導の在り方との関わり。

- ・自発的に対話・交流活動に取り組めるような手立ての工夫が必要である。
- ・教師が「～させる」授業から、生徒が自ら「～する」授業になるような支援の工夫が必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・見通しをもって主体的に学習に取り組み、自発的な対話・交流活動を通して、お互いに考えを高め合うことができる。

(2) 共通実践する手立て

- ・各教科等で学び合い、考えを高め合った生徒の姿を具体的に示し、それを元に単元や題材で生徒が自発的に対話・交流活動に取り組めるような手立てを工夫する。
- ・教師が「～させる」授業から生徒が「～する」授業になるように各教科で手立てをよく吟味し、改善していく。
- ・自発的な対話・交流活動ができるよう、ICT機器の活用や教材等の工夫、交流のさせ方の工夫など、具体的な支援を十分に検討しながら繰り返し実践し、よりよい支援に改善していく。
- ・思考ツールを効果的に活用し、協働的な学びに取り入れていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「自発的な対話と交流を促す手立ての工夫」を実践し、有効な手立てを積み上げることができた。
- ・各授業で「魅力的な課題の設定」と「発問の工夫」を意識して授業を組み立て、生徒にとって必要感のある課題が設定できるように工夫することができた。

○課題

- ・生徒の実態をよく把握し、生徒にとって本当に必要感のある課題がどのようなものなのかを吟味していく必要がある。
- ・高め合った生徒の姿をより具体的に想定、提示し、そこから逆算して授業を組み立てていく必要がある。

○今後の取組

- ・全教員が参考にできるように、有効だった手立てを教科ごとに整理し、一覧でまとめ、可視化する。
- ・一人一授業のみでなく、継続して手立てを模索し、実践していく必要がある。
- ・引き続き「魅力的な課題の設定」と「発問の工夫」を意識して授業を作っていく必要がある。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.14	・校内研修主題の確認 ・指導案の形式について	○主題、副主題の検討 ・主題は「学び合い、考えを高め合う生徒の育成」に決定。 ・副主題は「自発的な対話と交流を促す手立ての工夫を通して」に決定。 ・指導案の形式の確認
4.28	・各教科の目指す生徒像、	・目指す生徒像の検討(教科部会での確認) ・研修計画等の確認
5.16	・指導主事要請訪問A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
5.26	・年間授業予定、組織編成 ・授業者の確認	・1人1授業の検討 ・1人1授業の授業実践について
6.20	授 数学科 関口教諭	○ロイロノートを活用して個人またはグループの考え方を視覚化して共有したことは、友達と対話しながら問題解決をする上で有効であったか。 ・身近な題材を扱ったことで、グループでの話し合い活動が活発に行われた。
6.23	授 英語科 林秀教諭	○キーワードを考えグループで修正したことは、わかりやすい国際交流の発表をする上で有効だったか。 ・生徒の興味を引く導入が行われて、興味を持って授業を始めることができた。
6.23	・指導主事要請訪問Aを受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
9.1	・2学期の予定 指 要請訪問B 指導案検討①	・2学期の研修予定について ・要請訪問Bまでの計画の確認 ・指導案の形式、授業構想について
9.8	指 要請訪問B 指導案検討②	・授業の視点と校内研修との関わりについて
9.29	授 国語科 星野梓教諭	○思考ツールを使って思考を整理したことは主体的に話し合うために有効であったか。 ・思考ツールを使うことによって、話し合うための手助けになった。
9.29	指 要請訪問B 指導案検討③	・ねらい、指導計画、評価項目等について
10.7	授 英語科 亀井教諭	○修正を加えながらペア、グループ、全体と段階を踏んで活動させたことは、身近な人についてより詳しく、正確に紹介させる上で有効であったか。 ・めあてが明確であったため、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができた。
10.16	授 理科科 小幡教諭	○本時の課題設定の仕方は、生徒の自発的な活動(対話・交流)を促すのに有効であったか。 ・「体験活動～課題発見～課題設定」という流れが生徒の意欲・関心と必要感を促せるものとなっていた。
10.20	授 社会科 宮内教諭	○自分の考えを伝え合う活動において、同じ立場の人と交流させたことは、自分の考えをよりよくするために有効であったか。 ・個⇒グループ⇒全体の意見共有の流れがよかった。 ・話し合いやすい課題設定であった。
11.7	授 音楽科 臼井教諭	○登場人物の旋律や表現の違いを聴き分ける活動において、グループで意見を交流しながら考えたことは、考えを深めるために有効であったか。 ・導入を工夫したことで魅力的な課題設定ができ、生徒が主体的に取り組むことができた。
11.10	授 数学科 竹之内教諭	○作図に用いた情報を伝え合う活動は、三角形が合同になるための条件を見いだすうえで有効であったか。

		・合同な三角形の条件を探すために自由に作図をさせたことにより、自然と話し合い活動が生まれた。
11.2 1	授 国語科 登坂教諭	○和歌の紹介対象を具体的に示したことは自発的な対話・交流活動を促すのに有効だったか。 ・必要感のある課題だったので、自発的に対話・交流活動を行っていた。
11/2 5	・指導主事要請訪問B授業研究会の方法について	・授業研究会の方法、検討班について
11.2 6	授 保健体育 星野颯教諭	○課題チェックシートやお手本動画を活用したことは、自発的な対話と交流を促すのに有効だったか。 ・魅力的な課題で、全員が自分事として捉え、自発的に対話・交流活動が行われていた。
12.8	・B訪問を受けて	・B訪問を受けて、今後の校内研修の方向性を確認
1.26	・アンケートのまとめ	・成果と課題、生徒の変容を確認 ・沼田市の教育について
2.16	・来年度の研修について	・来年度の研修の方向付け ・年間指導計画・評価計画の修正

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
4.28	エ 学校保健に関する研修	養護教諭 久保田 窓	・救急体制、アレルギー対応について ・熱中症対応について ・嘔吐物処理について
4/28	ク S S Wに関する研修	S S W 清田 和泉	・S S Wとはなにかについて ・S S Wの活用の仕方について
6/20	イ 生徒指導に関する研修	生徒指導主事 星野 颯	・S O Sの出し方教育について
9.8	ア 学習指導に関する研修	教頭 栞原 伸明	・学力向上に向けての取り組みについて ・各教科の振り返りにについて
12.8	ク 教員に必要な素養に関する研修	S C 廣田 莉奈	・生徒の心のサインへの寄り添い方について ・悩んでいる生徒、困っている生徒への声かけの方法について
職員 会議	キ 服務規律に関する研修	各教職員	・公務外の非違行為の防止 ・児童生徒への不適切な行為の防止 等

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	林 崇 夫	養護教諭	久保田 窓
教 頭	栞 原 伸 明	主任事務長代理	保 坂 歩
教 諭	林 秀 紀	非常勤講師	金 子 友 美
〃	星 野 梓	初任研後補充	亀 山 晶 子
〃	亀 井 康 平	学校教育支援員	塩 野 美 喜
〃	関 口 由香利	スクールカウンセラー	廣 田 莉 奈
〃	登 坂 俊 介	スクールソーシャルワーカー	清 田 和 泉
〃	星 野 颯	用 務 員	宍 戸 裕 康
〃	宮 内 啓 悟	部活動指導員	新飯田 光 盛
〃	臼 井 幸 葉		
〃	林 徹 志		
〃	小 幡 儀 見		
〃	竹之内 隆		

池田中学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9330 FAX 23-9273
校長名 金井 綾子

I 学校の経営

1 学校教育目標

【心の豊かさを求める生徒】 【技の確かさを求める生徒】 【体の健やかさを求める生徒】

2 学校経営方針

スローガン：「一人一人がきらりと輝る池田中」

(1) 目指す学校像

- ・生徒が充実感をもって学校生活を送る学校
- ・保護者が信頼して任せられる学校
- ・地域が誇りにできる学校

(2) 目指す生徒像

- ・互いのよさを認め合い、礼儀正しく思いやりのある生徒
- ・自ら課題を見付け、自ら考えて積極的に学習する生徒
- ・すすんで体を鍛え、心身共に健康な生徒

(3) 目指す教職員像

- ・生徒一人一人のよさを認め、夢や希望をもたせる教職員
- ・常に専門性の向上を目指し、生徒の個性や能力を伸ばす教職員
- ・保護者、地域、同僚から信頼される教職員

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実【地域と共にある学校・学校とともにある地域づくり】

- ・地域住民との協働による教育活動の充実に努め、温かく活力に満ちた学校経営の充実を図る。
(地域との交流行事→地域との合同運動会・ふれあいマス釣り大会・文化発表会での体験教室)
- ・「全職員で全生徒をみる」きめ細かな指導を通して生徒の多面的理解を図る。
(「指導で子どもが変わる」「子どもの姿で指導を振り返る」)
- ・連絡・報告・相談を密にし、教育談義のできる明るい風通しのよい環境作りに努める。
- ・人事評価制度や各種研修を活用し、職員の職能成長を図る。(学び続ける職員集団)
- ・生徒と向き合う時間を確保し、より豊かな学びを生徒に届けるため、一層の業務改善に努める。

(2) 確かな学力の育成【教師が「～させる」授業から、生徒が「～する」授業へ】

- ・育成する資質・能力を明確にし、内容や時間のまとまりを意識した単元構想の工夫に努める。
- ・問題解決的・探究的な学習を重視するとともに、対話や交流、試行錯誤の場面を効果的に取り入れる等、授業改善に努める。
- ・学力検査等の分析や日常の実態把握に基づく、各教科における個に応じた指導の充実を図る。
- ・校内研修推進委員会とともに学力向上推進委員会を実施し、生徒の基礎学力の向上に努める。
- ・家庭学習の内容や方法を工夫し、生徒が自分で考え主体的に取り組むなど「自立した学習者」の育成を図る。

(3) 豊かな人間性の育成【ぬまた未来創造学の推進・児童生徒の命を守り、育てる教育】

- ・総合的な学習の時間を中心に「ぬまた未来創造学」を推進し、郷土のよさを理解し、郷土に愛着をもてる人間性豊かな生徒を育成する。
- ・道徳科を中心として、全教育活動を通して自他のよさを認め合うことのできる生徒の育成を図り、温かな学校・学級作りを推進する。(全員道徳)
- ・信頼関係を基盤にした生徒指導を推進し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実を図る。(SCによる面談・授業)
- ・体験的な学習やボランティア活動を通して、地域の一員としての自覚を高め、互いに協力し合おうとする態度の育成を図る。

(4) 体力の向上・健康増進【教育部活】

- ・体力向上プランに基づき、視点を明確にした保健体育の授業や体育的行事、部活動指導を継続的に実践することで、持久力や筋力、運動技能を高め、体力の向上を図る。
- ・部活動においては、教育部活の理念に基づいた活動を行い、副顧問の配置などにより、安全確保や技術面の向上を図る。
- ・各種たよりによる啓発活動を通して、疾病治療率の向上やよりよい生活習慣の定着を図るとともに、学校保健委員会の取組等にも関連付け、健康の増進や体力向上を図る。

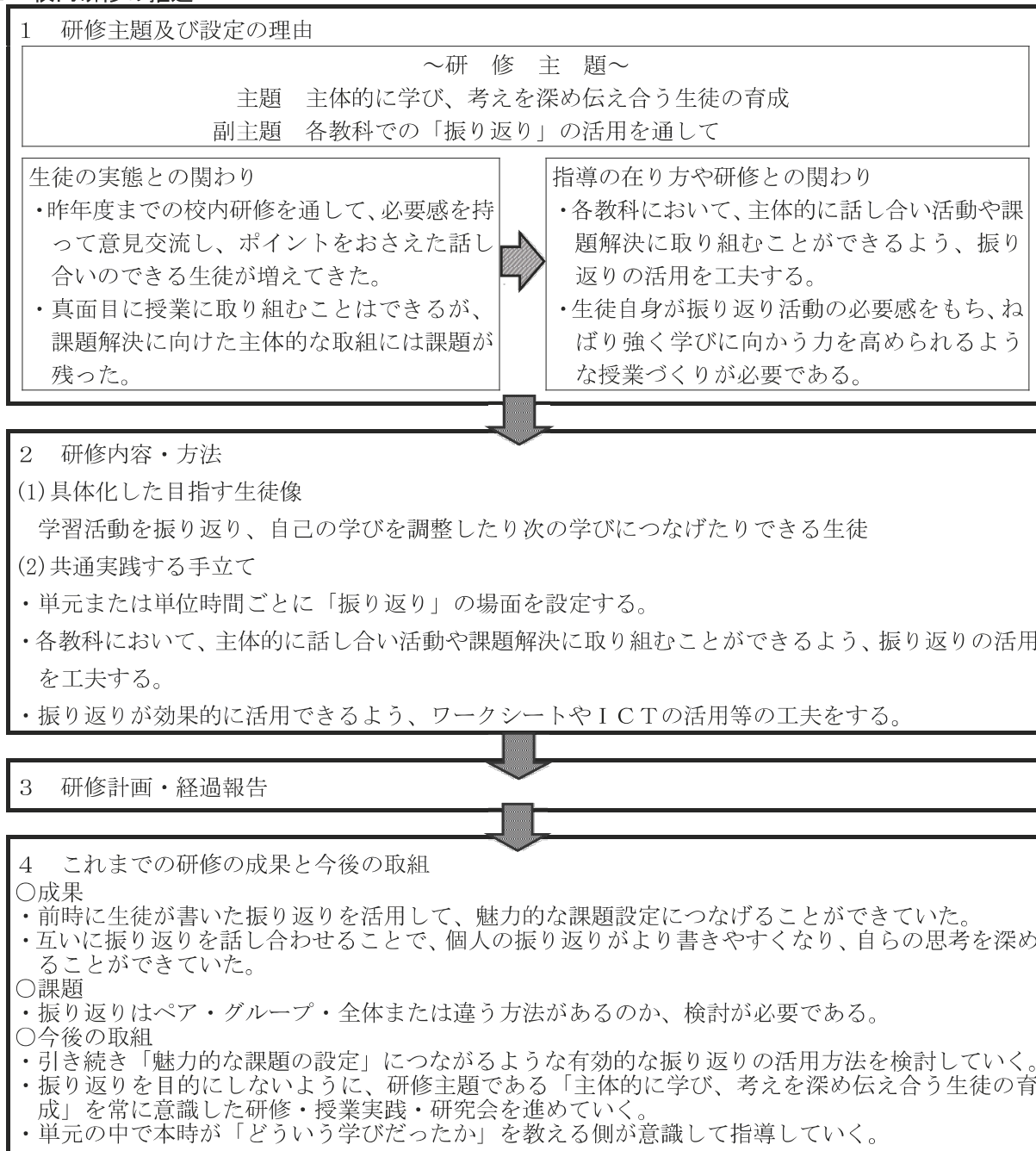
(5) 家庭・地域・小中連携【小中連携・コミュニティスクールの推進】

- ・小中連携推進会議を年2回開催し、様々なギャップを取り除き、教育効果を上げるための連携を推進していく。
- ・学校運営協議会を通じて、目標やビジョンの共有を図り、さらなる連携と協働を推進する。
- ・地域学校協働活動推進コーディネーターに図書室の整備や職場体験活動の支援ボランティア探し等を依頼し、実績をつくりながら活動の活性化を図る。



(6) 安全教育の推進【セイフティ沼田・沼田SNSルール】



- ・各種避難訓練、交通安全教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。
- ・各学年で計画的に情報モラルについて学ぶ機会を設定したり、これまで行ってきた効果的な取組を継続したりし、家庭と連携しながら、情報モラル教育の充実を図る。

II 校内研修の推進



3 研修計画・経過報告		指 指導案検討	授 研究授業・授業研究会
月日	内 容	経過報告 [○研修の視点、◎成果、◇研修のバトン]	
4. 9	推進委員会	○今年度の研修主題・研修内容の確認	
4. 17	推進委員会	○目指す生徒像の確認・研修方法の検討	
4. 21	全体会①	○研修主題「主体的に学び、考えを深め伝え合う生徒の育成」 副主題 「各教科での『振り返り』の活用を通して」	
5. 7	全体会②	○A訪問の確認	
5. 27	全体会③	○A訪問の最終確認	
6. 9	指導主事訪問A	○今後の研修の方向性について指導主事より助言	
6. 16	全体会④	○A訪問でも助言を受けて、今後についての確認	

6.25	推進委員会	○一人一授業と教師のバトンの進め方
6.30	全体会⑤	一人一授業と教師のバトンの確認
7.1 7.7	授 3年社会 全体会⑥授業研究会	一人一授業① 小林寿教諭 3年社会「独立の回復と55年体制」 ◎シンキングツールの活用や振り返りの活用ができていた。振り返りから本時のめあてにつなげることができていた。 ◇ペアでの交流の有効性や、単元の中で本時が「どういう学びだったか」を教える側が意識して指導していく。 
9.29	全体会⑦指	第1回指導案検討
10.10 10.14	推進委員会 全体会⑧指	○教育水準向上授業研究会について 第2回指導案検討
10.16 10.20	授 1年英語 全体会⑨授業研究会	一人一授業② 岡田教諭 1年英語「Program 6」 ◎授業構成がパターン化されていた。魅力的な課題設定がスムーズになされていた。ペアでの交流の有効性が見られた。 ◇魅力的な課題設定を意識して行っていく。 ペア・グループでの対話・交流を有効的に行っていく。 
10.23 10.27	授 2年数学 全体会⑩授業研究会	一人一授業③ 萩原教諭 2年数学「4章『図形の性質と合同』」 ◎前時の振り返りを活用して復習をして、本時の課題につなげることができていた。互いに振り返りを話し合わせることで、個人の振り返りがより書きやすくなった。 ◇振り返りの共有や発表については、ペア・グループ・全体または違う方法があるのか、検討が必要である。 
11.4	全体会⑪指	第3回指導案検討
11.13	教育水準向上授業研究会授 1年理科	教育水準向上授業研究会 研究授業（兼一人一授業④） 阿部教諭 1年理科「身の回りの現象 第1章『光の世界』」 ◎教師が実際に実験を見せることで、生徒に課題に対する必要感を持たせ、魅力的な課題設定につなげることができていた。 ◇振り返りを次時につなげるために、振り返りの視点を与えていく。 

11.14 11.17	推進委員会 全体会⑫	○教育水準向上授業研究会を受けて ○教育水準向上授業研究会の振り返りと今後の校内研修について
12.2 12.11	授 1年音楽 全体会⑬授業研究会	一人一授業⑤ 小林千教諭 1年音楽「音楽の特徴に注目しながら、 情景を思い浮かべよう」 ◎前時の振り返りから課題設定につなげることができていた。 ◇本時のねらいを意識した指導や、達成に向けた手立て（展開と時間の管理含めて）の精選が必要である。 
12.11	推進委員会	研修の経過報告
12.12 12.15	授 1年体育 全体会⑭授業研究会	一人一授業⑥ 山口教諭 1年体育「球技（バスケットボール）」 ◎導入時の課題設定で振り返りを活用したり、終末時の振り返りを共有したりすることができていた。また、振り返りの視点が明確になっていたため、生徒が活発に振り返り活動に取り組むことができた。 ◇めあてを達成するためのさらなる手立てが必要であった。 
1.26	全体会⑮	今年度の研修のまとめ（成果と課題の確認）
2.18 2.24	推進委員会 全体会⑯	来年度の研修の方向性について 来年度の研修についての確認

資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5月7日	エ	養護教諭	アレルギー、熱中症対応に関する研修
5月12日	カ	メンターチーム リーダー	落ち着かない生徒への指導、生徒の見守り方
7月8日	ア、キ	メンターチーム リーダー	仕事の効率化、学力低位の生徒への課題について
8月27日	イ	メンターチーム リーダー	集団指導・個別指導で子どもが前向きになれるような伝え方
12月11日	ア、イ	メンターチーム リーダー	定期テスト作成について・生徒の動かし方・指導の心構え
1月15日	イ、ク	メンターチーム リーダー	卒業・進級に向けての指導について

〈 職 員 一 覧 〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	金井 綾子	教諭	岡田 華	非常勤講師	森 峯子
教頭	清水 良人	〃	星野 文隆	〃	遠山 泰代
教諭	阿部 万里子	〃	小林 千晴	教諭(学校間連携)	林 徹志
〃	萩原 正人	〃	山口 傑	SC	阿左見 成
〃	鈴木 香穂	養護教諭	高橋 渚	用務員	石田 久米幸
〃	小林 寿雄	事務主事	小林 ゆり江		